

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十一月度 入選句（投稿総数三千三百九十二句・小中学投句数二千九百七十六句）

特選

かまきりがげんかんの前とおせんぼ 大垣市 牛田 帆香(小二)

玄関に現れたかまきりにびつくりしたのでしよう。かまを振り上げんばかりにじつとこちらを見つめるかまきりに通せんぼされているように感じて、出かけようとした作者の足が止まった様子がよくわかります。場所を表す中七、気持ちが伝わる下五が、季語であるかまきりをより大きく感じさせています。その後かまきりはどこへ行ったのでしょうか。

みそせんべいパリツとわれて秋景色 大垣市 齋藤 優衣(小六)

老若男女に愛されている大垣名物のみそせんべいのおいしさが広がる俳句です。みそせんべいのわれる音とともにおいしさが広がるように、秋の美しい景色も広がりを見せていると表現しているところに心が和みます。中七の「パリツとわれて」が生きています。読み手の想像力を広げる秋景色という季語も、俳句を明るくしています。

こうえんのこのみいっぱい大さわぎ 大垣市 受川 めい(小四)

毎年秋になると、落ち葉にうもれた木の実を夢中になってさがす子どもたちの姿が、あちらこちらの公園で見られます。中七の「このみいっぱい」には、手からあふれるほどの木の実をひろって存分に楽しんでいる様子が表れています。「大さわぎ」という動きを表す下五で元氣も加わりました。大さわぎしている子どもたちといっしょに木の実も大さわぎしているのでしょうか。

秀逸

山登り秋めく木々の声がする 美濃加茂市 伊藤 颯吾(中三)

そよ風にあわせて踊るススキ達 美濃加茂市 長谷川 加苗(中三)

どんぐりがでんぐりがえしどこへゆく 大垣市 早野 陽真(小一)

びようぶえにうつとり見とれ文かの日 大垣市 よし田 じゅり(小三)

やきいもをみんなでたべてあつつのつ 大垣市 なかむら みさき(六才)

息白し想いは真っ赤に染まってる 大垣市 細野 凧咲(中二)

野や山に色をつけてく秋の風 大垣市 河本 珠璃(小四)

秋日和水面が光る舟下り 大垣市 野田 希愛(小四)

また合おう約束したよ赤とんぼ 大垣市 平田 ひなの(小六)

おでんだね私のねらいはゆでたまご 大垣市 野村 陽向(小三)

入選

赤とんぼ指先とまり飛んでゆく 美濃加茂市 汲田 彩花(中一)
 大空に向かって飛んでけ赤とんぼ 美濃加茂市 大島 豪太(中三)
 秋衣替え最後の制服はじまった 美濃加茂市 松岡 里音(中三)
 バスを待つ秋に染まる町中で 美濃加茂市 中西 詩織(中三)
 大垣城なぎなた光る秋夕焼 本巢市 水谷 克次朗(小二)
 さつまいもつちのなかからこんにちは 大垣市 ペルティエ エま(小一)
 ぼとぼととどんぐりのあめさあとうろ 大垣市 こやす ゆうこう(小一)
 道具ばこいっぱいためて冬じゅんび 大垣市 織田 優花(小三)
 ゆめの中からくり人形秋の夜 大垣市 細野 桜(小三)
 大根を全力でぬく妹と 大垣市 木幡 真雄(小四)

入選

犬散歩しやくしやく進む霜の道 大垣市 河原 智華(中二)
 隙間風かたかたゆれる障子かな 大垣市 郷 敏也(中二)
 おじぎしておねだりするよしかさんが 大垣市 石川 由悠(小六)
 秋の川水面にうつるぼくの顔 大垣市 木村 朋生(小四)
 こうえんでぐうぜんであつたきりきりす 大垣市 はせ みおり(小一)
 スズムシが白いヒゲふりナスにとぶ 大垣市 柘植 結吏(小二)
 かえりみちあきがいつぱいおちている 大垣市 佐藤 莉子(小二)
 秋風がわたしをおいかけ登下校 大垣市 吉川 未悠(小五)
 もみじがねまつかになつててれてるよ 大垣市 谷 はぐみ(小六)
 ばしょう像さくらもみじと空を見る 大垣市 渡邊 濤(小六)

選者吟

枝の先吹かれてしがみつく木の葉

佐知子